



La Voz No. 79 (1980年11-12月発行)

イラスト提供「太平洋古代文化」調査事業

はるばる、黒潮に泳って太平洋横断を果した野性号Ⅲは、アメリカ大陸の西海岸をさうに南下、エクアドルのグアヤキル港にその姿をみせました。時は1980年10月12日、くしくもコロンブスが「新大陸を発見した日でした。乗組員六名は全員元気で、グアヤキル市のハナムセ市長に会ったり中央銀行博物館でひらかれた野性号Ⅲ入港記念展に出席しました。

エクアドル中央銀行博物館に展示されている土器と地図には、今から5,000年ほど前に日本の漁民が漂流してアメリカ大陸からさらにエクアドル沿岸に漂着したという説明がつづかれています。これは1965年にアメリカとエクアドルの考古学者が提出した学術報告「エクアドル海岸の形成期前期」の中で発表されたもので、それには次のように記載されています。

「...今から5千年前のこと。九州の南西海岸から漁に出かけた一隻の小舟が嵐にあって...黒潮にのり...さらにカリボレニア海流に乗って赤道をこえ、ついにエクアドルの海岸に漂着した。この縄文時代の漂着者は、その地に住みついで古代エクアドルの人々に土器の制作技術を伝えた。こうしてアメリカ大陸全体でもっとも古いエクアドル最古の土器文化「バルディビア文化」が誕生した...」

今月の5月、下田港を出帆したタブレカヌー「野性号Ⅲ」は、この「縄文人の太平洋航路」の仮説にいどんだのです。



太平洋古代文化の会会長の角川春樹社長は、出発の際、「野性号Ⅲの航海も苦斗とおびただしい汗を強いだろう。しかし勝利とは肉体を燃焼させてはじめて獲得できる歴史だ。これも一つの戦いなのだ」と言つて乗組員をはげました。まさしく今回の航海は、その歴史を度けるにふさわしい壮挙といえましょう。

私たちが「実をさぐるのは、実に学ぶためです。単に「実を学ぶ」とは何の意味もありません。「に学ぶ」ということは自分と無関係なものとしてではなく自分に關係あるものとして学ぶことです。自分はかく生きている。彼らはかく生きた。なぜ」などの言葉で過去に接する時、はじめて私たちは新しい見方ができるようになります。聖書は世界で一番古い書物です。その聖書が教えている真理も過去を現在にうつして自分の体験としてとりいれるとときに新しい生き方がはじまるのです。あなたも求めて下さい。そうすれば与えられます。それは神の約束だからです。あなたの人生の航海が祝福されるために!

サタデー・トーク

バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送		淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送	
11月04日	クリスチーンのアメリカ新発見 (20)	11月05日	聖書遊覧バス 旧約聖書27篇
11月11日	天野博物館 (3)	11月12日	お便り交換の時間
11月18日	女ばかり南米大陸に行く (19)	11月19日	詩篇28篇
11月25日	マリンバの調べ	11月26日	詩篇29篇

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.jp>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。(mp3形式)

放送時間：日本時間 午前7時半～8時 15420kHz (再放送) 午後8時～8時30分 11905kHz
(米国アリゾナ州制作/オーストラリア送信)

